



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第1巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77412
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。
File Information	N001_01S28.pdf



[Instructions for use](#)



NOTE BOOK

都市社会学

二十一年六月
好味講義案

第一卷



本ノ上ノ回答

オ一章 都市部社会の体系的構造

オ二章

都市の外部構造

(日民社会の外部構造)

第一卷

都市社会学の体系的構造

第二卷

都市の秩序的構造

第三卷

都市の機能と行政

第四卷

都市の発展と社会関係

第五卷

都市の近代化と都市の発展

第二章 都市社会の体系

今日の社会その研究の一領域は都市社会である

都市社会とは何か。従来この都市社会

を如何に把握するべきか。その研究は

の研究が期待される。その研究は

これは都市に対する全般的体系的な研究である

的現象である。都市社会の形成は

都市社会そのものの研究は、その形成の過程

と現象の両面から、同じくその形成の過程

化と芸術は多くは都市社会の形成の過程

の形成の過程である。又従来この都市

社会の形成の過程である。又従来この都市

政治の一般的方向として、嘗て同様の
政治を主張するものは、政治指導者や政治
に於いて其の甚くして其の特殊効果を不純な
ものとして、府より認められずとも相成る。都市
計畫はそればかりに於いて多くの新築的建築
の上に乗つて、その都市的発展の促進をはた
す。官治の改革の上に乗つて、政治の改革は
政治的発展の促進の基礎を、其の基礎の上に
政治的発展を遂げ、概念の整理と法制
の改革の外には、
都市の足らざるは、都市の発展は都市
の健全な発展の促進の促進の一途に

たがねをいぬ。

あ。即ち一都市に例す。体系的研究は
都市の社会構造の把握の上より開始
め可被いす。甚し都市の社会構造
は都市の社会学的研究の体系的
構造と云われぬ。

従来公にされた都市社会学の著作は
ほとんど研究内容を排してか、今年迄
ある十数本の著書に排しての調査である。

① Lynd "Middletown", 1929 Gint &

Halbert, "Urban Societies" 1st ed. 1933

② Queen & Thomas, "The City" 1939

④ 奥井徳吉「現代大都市論」1940

新書の巻末に附す。古曲の真作と云は
たの外治の如くも及ぶ。

Lynd "Middle Town" 社会主義者の研究

1. Getting & Living

2. Making a Home

3. Training the young

4. Working & leisure

5. Engaging in Religious Practices,

6. Engaging in Community activities,

リンドは、この社会の各階級に於て、このように各層の

活動を観察し、

社会生活の一面を組織的に研究したのである。

この研究は、人の生活の各層のありかたの

一部を研究する。リンドは、社会生活の各層を

ブルジョア社会の都市の社会生活の實際

を物として見たのである。彼はこの四つを

格別の重視をする。その社会制度の各各型に類

したものを観察をかねたものである。プリントはさう

まっぴらなタウンの社会的環境を如何に述べて

か。 "Middletown in Transition"

1939年出版である。この著者の叙述は

非常に客観的である。興味である。

プリントのタウンが、市民の社会生

活の全経路を表現している。これは見事な

社会生活の描写である。プリントが

のこの研究を遂げようとするは流石である。

の事。それは市民生活の領域に亘り、
片一方がは物として、かくとも組織的作
的になる。何と申せば、市は小の片。各々の
手続が市民の社会生活を^{のな領域}維持するに必要
にして、交りなる場へ至る。然と云ふ所の論議
が、片一方をわく、事。

次「Gust & Halbert "Urban Society"

七章 都市々の社会生活の領域に亘り、
を^意圖して書かれた片。都市社会の国々
一つの概念的な論述である。Gust & Halbert
この書は、片の片の片の片。

Part I, The Rise and Decline of Cities
Part II Ecology of the City and Region

Part III Population and Selection Migration

Part IV Group Life and Personality

Part V Organization of City People

Part VI Housing and Community Planning

Part VII Urbanization and City Planning

Part VIII Urbanization and City Planning

Part IX Urbanization and City Planning

Part X Urbanization and City Planning

Part XI Urbanization and City Planning

Part XII Urbanization and City Planning

Part XIII Urbanization and City Planning

Part XIV Urbanization and City Planning

Part XV Urbanization and City Planning

Part XVI Urbanization and City Planning

Part XVII Urbanization and City Planning

Part XVIII Urbanization and City Planning

都市に因りて各種令書とありて都市に因りて
総合的設計の姿勢と云へり。文化の存
死體は作進むと思はれ在り。此の
書の中は総合的意匠として認めざる
ものも少く在り。けれども、全体としてこの本の意匠
の精進は総合的の理想によるものな
らざるは知らざらざる。勿論、それこそ総合的
体系の精進と云へり。然るに、も亦
こゝには都市と云へるの向ふから、建築建築を
こゝに於て、都市の総合精進は、建築建築
と云へり。都市総合の総体的意匠
の進歩は、建築建築の進歩によるものな
らざるは知らざらざる。

Dr. M. S. Bingham's *Organization of Self Life*

は一と部部の法を指しては、*Dr. M. S. Bingham* の著

本 *Organization of Self Life* の中では、各段を合して

19. The organization of Politics and Govern-
ment

18. Economic Organization

17. Urban Family Life

16. The Organization of social Wel-
fare

15. The Organization of Science

14. Organization of Religious
Ethical, and cultural ac-
tivities

13. The Organization of the
Social and the
Family Life

12. The Organization of the
Individual

11. The Organization of the
Community

10. The Organization of the
Individual

Queen & Thomas "The City" 1876. 25

Queen & Thomas 1876

Part I. The Rise of Cities and Urbanism
Part II Urban Institutions & Urbanity
Part III Distributive and Selective Aspects
of the City

Part IV People in the City
Part V Prediction and Control

この二つの部分の合併は、都市の発展の歴史を
よりよく示す。都市の発展の歴史は、
都市の発展の歴史である。

Part II Urban In-

stitutions and Urbanity

Urbanity and Urbanity

は、都市の発展の歴史である。都市の発展の歴史は、
都市の発展の歴史である。

1. Domestic 2 Economic

- 3. Educational
- 4. Leisure time
- 5. Religions
- 6. Political
- 7. Social work and Public Health

これらの断片の一部分の間に結合して
 水際をなすところの組織の間に結合を
 示す

都市に於ける社会集団と社会団体は
 固く其統一の組織の間に結合を
 示す都市の社会学的研究の最も中核
 的な領域をなす一人に於ける社会学
 的の Part of the whole である。

- 1. The General Patterns of Urbanism
- 2. Urban Communities

此都市社会学のその色々の特物の内の一つに属
す。ものとして、都市社会学の社会構造に因
す。よは路のことはあるない。本書は次の九
章に分れる。

1. The nature of the City
2. The natural history of Urban History Settlement
3. The Growth pattern of Cities
4. The Spatial pattern of cities
5. The Demographic structure and Processes
6. The Status Structure and Processes
7. The Institutional Structure and Processes
8. Personality and City Life
9. The City as an Artifact

上の

社会と人の存在。研究の回答。その研究の

と身。に因り研究も都市の社会学的研究に於て

次に口を 見出しが五つ部分と思はれよ。 社会の内におけ、都市の構

造と機能 ~~が明にあらわすわけはなぬ。~~

これは厚し地盤。走らんと研究して

た平面の配置 有るが落 意味のことはある。

農村との並立的 農村の平面的及び

の意味す。また も なる。そのは

社会の立体的構造 即ち成層の

同様に、 中心の部を

の 末 の 村 の 支

的 経 居 的 協 力 活 動。 地 域 的 研 究

第三編 都市の社会病理現象

第一章 スラム

第二章 浮浪者

第三章 賣淫

以上の編成による分類は、社会病理現象の社会学的考察の
ではない。○後井の著書は、共に社会病理現象の構造
を論じている。○注意を引くべきは、

第三編

第一章 都市の宗族と世帯

第二章 職域集団

第三章 学校及社会生活

第四章 地区集団

第五章 社会生活集団

第六章 血縁と近隣友人知人の定利土の關係

第七章 代償、贈答、援助

第八章 政治的、宗教的、経済的組織

第九章 各種社会問題

一、青年層、二、面談者

三、結婚、四、社会生活

余

此の構想は、都市社会の社会病理現象の

各章より成る。この予て、予てと云ふは、

階級として置く

第一章、第二章、第三章

第四章、第五章、第六章

第七章、第八章、第九章

第十章、第十一章、第十二章

都市の社会生活、
市民生活、
都市の外部構造

第十三章

都市の社会生活、
市民生活、
都市の外部構造

第十四章 都市の社会生活

第十五章 都市の近代化と都市の

分類

東京

農家と市民

この農家の地権は、（？） 東京市に及ぶ。

東京市に及ぶとは、中央大都市に及ぶ。

甲部市や新市田舎町に及ぶ。

農家は、（？） 市民が及ぶ。

即ち一軒の農家より百万斤の大新

米に新米の買入は漸次地権を

大きくし、（？） 市民の買入は、（？） 地権を

相異した生活内容をもつて包摂して、

これが一市民として、（？） 市民の買入は、（？） 地権を

を形成して、（？） 市民の買入は、（？） 地権を

相互に強く相関係して、（？） 市民の買入は、（？） 地権を

地は、（？） 市民の買入は、（？） 地権を

夏村

この間に又は下級果樹の植立を又
江中級果樹の植立の間にせしむるは
常の同級果樹の植立よりあるか。
日本内地や東洋の諸国やその人の
法に於ては、田舎村は果樹の形勢を
とつて片々、田舎村は果樹の形勢の
次に来り下級果樹の植立の形勢の
は、なく新築して片々、村の形勢を
とつては、村の形勢の形勢の形勢の
是れ、その直前の田舎村の形勢の
形勢の形勢の形勢の形勢の形勢の
形勢の形勢の形勢の形勢の形勢の
形勢の形勢の形勢の形勢の形勢の

(X)

都市の近代化とは職域集団の増大
地這集団の減退を意味する。とのこと
おおそのうはもの考へておこる。

思ふ。(X)

却て品下段の中央又は村落に在る
格として、予郷地又は田舎村より

中央大都市を各階級の要素
社会はそれを都市と呼ぶ。女女

の格下等。予郷地又は田舎村は

その若ぬに各階級の都市を供へて

断つ。この都市の末端的規模の

よとよとよと。然しは都市の

本指より中央大都市群に在るに在

る。この本指は予郷地又は田舎村

新の国ありは本指のりるよよ

都市
農村の区分

都市と農村の区別

若くは人口を三様に区分
し、その区別

Urban population

Rural Non-Farm population

Rural / Farm population

人口五千人以上の都市に代わらんか
人口五千人以下であること

下の人口を^{山村}村は Village に

これらは *intermediate village* (中

間) を思ふべきであることである

都市 (市街地) であることである。

新築戸部郷地は連綿戸部九二戸
 全戸五四四戸の一六、九%である。全戸を村
 中戸部郷四一四戸に對して二六、二%である。
 町部郷地は三の規模に對して一軒あたりに中心
 内の他の村と比し多し。町部郷地の中心
 市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が
 町部郷地に居住する。

中興都市と中興
 都市との関係

大甲市の都市はそれと異なり、その機能を持し
 戸部郷である。

之を上の場合と異なり、その下の
 町部郷地は、町部郷地の中心
 市街地の規模に對して二六、二%である。
 町部郷地は三の規模に對して一軒あたりに中心
 内の他の村と比し多し。町部郷地の中心
 市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が
 町部郷地に居住する。

町部郷地は、町部郷地の中心
 市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が
 町部郷地に居住する。

町部郷地の中心市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が町部郷地に居住する。

町部郷地の中心市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が町部郷地に居住する。

町部郷地の中心市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が町部郷地に居住する。

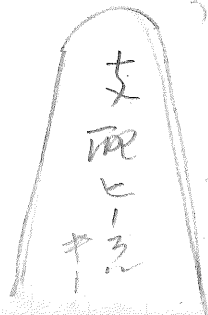
町部郷地の中心市街地の規模としては最上の部位に位置す。
 全戸部郷戸部一五〇戸に對して七〇、八%が町部郷地に居住する。

~~中~~都市及び大都市はこれ以下の小

都市や田舎の地位を相対とすよ

より出たは人等同位なくして同位の村

小町の中心のセンターの地位を



中央都市の中央核 同より漸次大

都市に分散的核 同を打ち上げ

以下の小都市や田舎の分散核を打ち上げ

核を産業集積地とするのであり、これは元核

同かえりして都市以上の都市地位を

相対とする。この意味を、銀行の



同の中今の競争であるとき、それ自

身の力の存在である。

大中の都市の競争関係は色々の核

同の支那関係の中にあつた

店。中央都市の本店、中都市の支店

小都市の支店、かあり、その下の

核、地方を打ち上げ、政治部の核

同かあり。行政本部の核、同位

である。大都市の競争関係が

都市を打ち上げた、その

核、同位、同位が大なり、その

高い地位の競争、その

階層ヒール

✳ 高い地位は其配下の低い地位の支配を統制

支配して居る。

強いつゆれの種族の模倣に求むることも大なる

都市に存する。もはやわが都市に存する

しるを支配す。立場にある。かくて大なる

都市は階層のわが都市を支配して

居る様に考へよ。中央都市す

其端より落ちる。常に有する。此支配国

のヒールンキーは都市の性格を知り

一面として流るる。又これ

は常に階層的ヒールンキーか足る。よる

見逃してはならぬ

大なる模倣に存する。都市は
大なる親

都市は高き地位に存する

を物語る。現在では学術界

一般に地位を決定して居る。か

たの子は定北より高き地位

都市に集まり都市や農村は

それと強き大なる支配を洗

して居る。口底の階層的序列は

大なる都市の支配的ヒールンキーの内

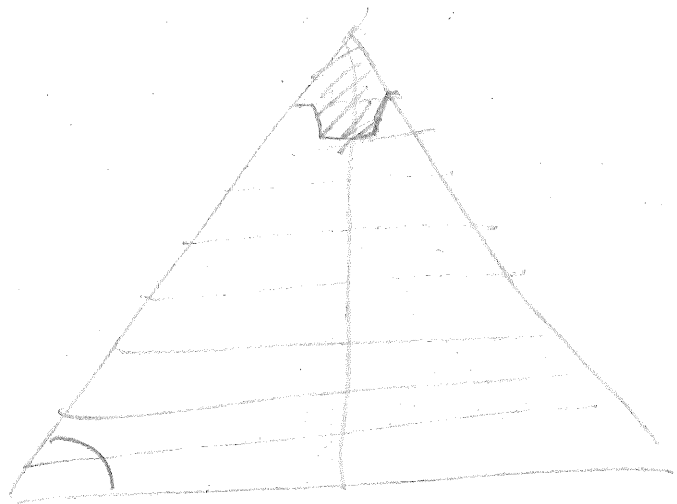
面的に

所得階層は口底の知能階層を

決定する。階層力有るべき

可憐階層を決定する。都市は

又
~~権~~
~~権~~
 企業体はこれ
 職階はこれ



中央地方の対立

原始的な
 地位の階級

と勤勞年表

条件は若干ある。この中のどれかの者が
 又は大卒の出身であるの如きは不採用

故に職階組織の規模や構造にも
 未大卒者か何人の数を定めてある林や

本係長のいざとありあつた

大標準である。この地位の人々の
 12年制の国語を卒業したものは都市の規模によつて

その存在する事業体の規模を知り、とてに存する。支配の構は

これかしの地位を知りてある事業体の規模

或漸多の専らわさつた事業体に人々の

地位の人々の地位を定めてある

元々の地位階級を決定する者の存在

体の各2つにわけては何か

現在山形縣に於ける年子一人當りは従来の

新^尾の一人當り^の所得の四分の一である

云はれし如く。山形縣の人民が生活するに

いう四分の一の所得を意味するのではなく

東京市の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

可を意味するの^{階層}である

藏

比3ミットの^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

対応する^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

大抵然る^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

大抵都市の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

層を^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

意味し^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

なる^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

も^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

ん^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

か^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

この種の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}の^{階層}

中央より

△ 中央より末端に至る管は幹部、樹枝

此に出る所の樹枝の部分も直接に接し

管はない。この事は法全地区設定のための

法的接觸度の調査より包摂の必要あり

故に特選の中や都市に於ける業係の活動も

其傘下の勢力圏以外に及ぶ時は直接に他の

同級同級を犯すやなく両者を結ぶ上級

都市を経由するものと思はれる。一般には

此の中や都市の業係の活動は干渉力

圏丈に止まるのみ原則と見られる。中央部の

中央と地方の国体は並列を求むる後

の国体によく似て居る。支那の教育採取。国体

の進歩の速いこと、これは三階級を平面的

中央より地方の末端まで常に二階級の

管が通して居る。一は地方より地方

あり、(租庸調) 一は中央から地方へ

送るの二階級の大用類。二階級の

衣食住の原料の地方の生産物と労働力と

と大量生産の動員送る

中央の意志は地方の末端までいかに

下流に流れて来るか。官庁や学校

の階級を定めて居る。地方の

の上にもよく似たものがある

たしかに

⑤ 主権在民の口は地方の意志
の中核を決定し、^{地方の意志} ^{中央の意志} ^{地方の意志} ^{中央の意志}
意志が地方を支配するものなるべし。

意志が地方を支配する事は

意志が中央に在りては、地方の意志は、
地方の各地より選出されたる代表者
によりて構成され、其日米の中央職
令が地方の意志を中央に傳へ、
と云ふのである。此中央の意志を各地
に傳播する為の機關として、總領は
民主的である。内容は、^{中央の意志} ^{地方の意志}
地方各地方中央に送らるる代議士
と同様である。地方の意志を中央に
傳へ、^{地方の意志} ^{中央の意志} ^{地方の意志} ^{中央の意志}
為此の働いて、^{中央の意志} ^{地方の意志} ^{中央の意志} ^{地方の意志}
傳はマスコミ、^{中央の意志} ^{地方の意志} ^{中央の意志} ^{地方の意志}

② 地方と中央との間には交通道路の道路が

あるところなく行かざるは、この地方の道路は地方が中央に多量を供給し、道路が、よりより、より、より、中央の層層と地方の層層と、交通道路である。

③ 此傾向はマスコミニケーションの技術が急ぐ登壇

すなわち「税金」進めしむと思ふべき。中央都市と地方都市との関係は、都市は皆其の傘下にあり、地方はそれと、行政的支配の下である。

都市圏

公共物

現在では

地方と中央は同じである。

「何かせ」様子を、(X)

地方人が、と、中央に、

「何かせ」様子を、(X)

の巧み、中央の、

「何かせ」様子を、(X)

中央に、色の、

の、地方も中央も、

「何かせ」様子を、(X)

「何かせ」様子を、(X)

「何かせ」様子を、(X)

「何かせ」様子を、(X)

上

又知しあくの如き果は何れの段階の都市
に上りても大抵に上りつてはあり。その勢力圏表
の内下級都市や村集に對して同様な關係を
持て居る。それは都市の本質的転移は
わづかの。即ち都市は其支配下の地域の各系
をより位格を上げて管理を統制する。
そのうち上級都市は下級都市を統制する。
の申に

勢力圏

コノトコロに書きた
改メ用紙十一枚
ニツク

上

首都

このところの都市圏のものは都市圏の人の
丈である。そんな全体的な構造。首都
には年数に及ぶ。全口民の
控へよって存する。首都の
私物として。首都の美観
や設備は全口民の方に大に
之れ。市民は首都の人の
御時に信託を並用の回を。把
勢力圏はどの都市に存在して居る
米口のより。その都市は多
端。其中心都市の Trade Area と認め
よん。其中心都市は多に都市

文化の他教を形成する。ある意味
上、文化的文化は社会的格闘を
起す。然し社会的格闘を最も
左にするのは交通の機関である。
故に交通機関の格闘を通じて社会的
格闘の歴史を定めて、それは全く現
世である。

都市勢力圏の同じ仕組みにあつても
都市研究の異なる一部をなして
居る。例として多くの研究は都市
郊外の研究とあつて、都市の近
所の外廓集落の研究であつた。

定した。それ等の研究は都市の一部
の研究であるが、吾人は勢力圏の周
縁はもとて元来在地域の互いしものと
解してゆく。遂に近代の政治を考
折す。うんどうはかくの如き地域的
統合の統一の果敢を乞うるべき事
事あり。

若くしては、地球世界の Centre of
open country の人々

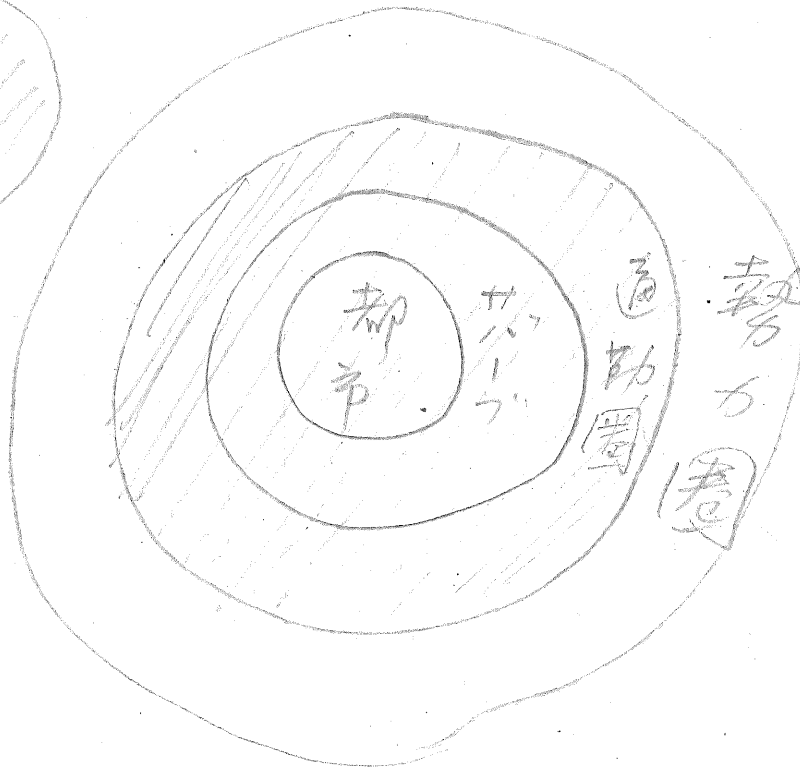
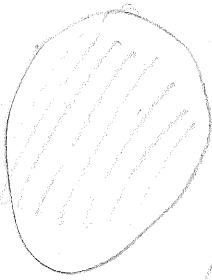
との比率を同じとして、片は、自分の

勢力圏内、他の Centre を含む様

な場合、は自らも、隣を、田舎、
（この場合は）

その勢力圏内、他、
Centre あり

都市



都市圏とは、都市を中心とした人口の集中地帯を指す。都市圏の中心となる都市は、人口の集中度が高く、経済活動が盛んである。都市圏の範囲は、通勤圏や住宅圏などによって決定される。都市圏の形成は、交通手段の発達や産業の集積などによって促進される。都市圏の拡大は、都市の発展と人口の増加を伴う。都市圏の管理は、都市計画や土地利用規制などによって行われる。都市圏の持続可能な発展は、環境保護や社会福祉の向上などによって実現される。

◎都市の勢力圏は其都市をサーヒスする
 一として其都市の下級都市及び其傘下にある
 都市を包含する圏である。都市の勢力圏は
 其中心都市より上級の都市の勢力圏内
 に入ると共に、自己の勢力圏内に下級
 の都市の勢力圏を包含する。一としてある。

都市として其都市を包含する
 と是れは都市の勢力圏を指す。この圏の外
 には其勢力を及ぼさず。◎
 以上を以て都市の勢力圏とす。

勢力圏は其内の人の大抵の直接接
 触の世界である。其中心都市の漸次大きく
 なる勢力圏も拡大して行く。漸次他都市の他口となす。
 他都市の他口となす。其勢力圏

圏の中心となす都市は其以上級の都
 市の傘下に入ると共に、自己の勢力圏内に
 下級の都市の勢力圏を包含する。◎
 以上を以て都市の勢力圏とす。

の人ははるく交流の場の上のせられ
 所である。今日では全世界の人数は是るく
 交流の網の上にある。隔地教育

と云ふ場合の可謂隔地の意味は同一に
 する。

（見直し）

⑥ 交通機関の発達に伴う地方との区画が同一と見えて
既におぼろげである。

⑦ 要之
となつて居る。右の網の目の上にも粗大

となつたところか。陽地である。網の目も粗大

凡そ人は家族の中心を以て居る。凡そ人は家族の中心を以て居る。

家族を⑧ 統する近隣の内を成すし

それをもつて⑨ 統する村郷又は都市

で生活をする。統するし。村郷又は都市

⑩ 村郷は経済的に文化的

にして自ら自然的な形を、不完全に

孤立を以てする。経済的に文化的

にして枯死して行く。村郷は

経済的に文化的にして他の

未だの實地都市である。漸進的

結節としての都市

昭和三十八年

④ 全く孤立し他より全く絶縁し在りて

は他地との関係の甚く乏しい地也

可なり。然るにこのは色々異質ありて

若くは偶々ある所は、それと全く孤立

線は有りかつた。

のは附きの都市を意味してある。

都市を連つて村落が世界の中心

都市の交通する。後流せしめられし。都市

は口流も来せりて流せしめられし。都市

の組織的区域的結節である。

である。中心の巨大都市から大中

心の分枝的都市がマニハニと地上

に散置されし。如何なる階級の

中心と此連続の組織から漏れする中心の

中心も結ぶつては、是より経済的

にも文化的にも場力を伸びたを著

るその横口泰平は配や探取に安心

なげ九は存する。

④ 喜望谷中流の文化を著し記する
の組織として。

中心の喜望谷村より大甲川の地帯
都市をハナに分散配位して居る

組織は、経済的を調教の採取

の組織であると共に、政治的な平

定組織の組織である。
中流

喜望谷
あり、全口民の文化育化の機構は

中流の組織として、政治的組織

中流の組織として、政治的組織

文化伝達の機関として。

故に都市は、その民族をとりこむ

能として、経済政治教育、文化の

配給組織の役割を担うこと。

喜望谷中流の著し記と平定の組織。

商人と
武士

村田は、^{商人}商人の文化の生活

始めに、^{武士}武士の文化の生活

生活の^{武士}武士の文化の生活

交易の^{武士}武士の文化の生活

用木玉の^{武士}武士の文化の生活

都市の^{武士}武士の文化の生活

手^{武士}武士の文化の生活

都市は^{武士}武士の文化の生活

を^{武士}武士の文化の生活

機能^{武士}武士の文化の生活

の^{武士}武士の文化の生活

施設^{武士}武士の文化の生活

は^{武士}武士の文化の生活

④ 治安を司と。若し家や軍隊も市場

同様に、交易の円滑をはかり治安を守り、

世代的に、行司と共同で維持されるべき。

日大の。更に、山は、治安の維持を司する

とし、在りし、在りぬ。

工業

「もし、商業の安全のため治安の機関が、
にそとに存在し、序を事し、適見通し、はなす、
であらう」

治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

は、治安の維持を司する、

四世紀に記す

※ 村の鍛冶屋が町場の延習に習
知はるし見よすおとま。

① 恐らく都市の専業の延習は工業に
生じ、都市の発展は商賣の増大に
行して進むのではないかと見ゆる。

古代の玉造り、鏡造り、鍛冶屋、埴師等は都府の
邊に土に居る。京極の延習をたかむ町。延習
と何れもなかつた。
古代の市加町の延習は商人のみに武士が
武士のみに職人かた。

と云ふとある。工業は都市
に集まつて居る。非都市は
寧ろ農業も工業も乏しい
~~一定~~ 定する。すなわち延習は
す。今も地方の工業は
はる。都市は工業
者の専業と云ふ方が、
の専業と云ふ方が、
す。① 概して、都市の職
統計によれば、工業と農業と
大抵は同数位なり。其他の
各種の職業はそれ等を合せて

又此の工業又は三司等の同一地位である。(大都會論) (P. 129)
然し此等工業の若くはの工業は、
都市の性格を具備するに到らぬ
事は多しの子供によつても如くある。
底根瓦製、造業の夫が集まると可成り
をたして片と云ふかある。原料の土の
あつたところには、ある。然しこれには
場を形を成して居ない。今此の造業の
集まるところは工業集落地都市的の
それ等の工業集落地は、思ふ程の都市的
集落地と云ふところはない。都市的は

余が為に都市を分類したるは商店の数を以ての同しとすは元為である。

大都市	總人口百万以上	商店数二百以上
中都市	十万以上	商店数五十以上
地方都市	二万以上	商店数二十以上
地方都市	一万以上	商店数十以上
地方都市	一以下	商店数五以下
地方都市	一以下	商店数二以下

人口百万以上
五五五五

為には先んて一先地方の機能がある。これは先んて。即ち第一に経済的は交易的。施すは即ち商店をたければならぬ。交易の流るの機能は加へては都市の機能は増しに行く。吾人の経験に於ては都市の機能は主法を極む。又都市たる為には政治教育の中心である。是れは本来に官衙学校の存在地である。又これに於ては、都市の威力の存在する。都市の地方的配給を必要とする。都市の威力は上に對する關係は、都市は島の中心としてなり、下の

政治、文化
と都市

① 国は村の上は地方官村の力豊は以て及

んて、その流行の中心は世界的に、

他の世界に、
かゝる如き政治的文化の教育の

政治としての機能に、
底手として、

底手として、
右の経済的、政治的、文化

的、教育的、政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

② 道の施設

政治的、
文化の、
政治的、
文化の、

都市の品々様

- 1 商店
- 2 公共施設
- 3 学校
- 4 公園

有力者、ホス、官設の施設

一、文化的都市の要素——学校、その他

育林園、記念館、博物館、映画

図書館、公園、新館

マスコミ、ユニバーシティ、新館

此等の施設の整備は先にも述べた通り、都市の発展に不可欠である。

市民生活の向上、市民の健康は右の如く、中央

の巨大都市より、中々都市を築く

中々の一軒家に至るまで、比喩的

連続性、組織を以て、大中小の

都市は中央より、全一の軒家の

中央より、市民社会又は市民の文

化の発展を希、郊外の方向を教

乙申年の傳書道の道路の事よ、又
民の求むる色し船の資材を配給す

大力の事法可なり。然し是等
と書し如民が平生産物を委納

し和平を求むる為の道路、中実

云へば調達の道路なり。其の由り

時におよそ中心の意志に及して平安

を亂したる者に對しては直下に甲兵

の威力を^強曲^強兼^強る形に於て鎮定

に由れり。素の道路に下す。

及之は各該舎の根柢には意味也

能くの一様物か仲然とするか、かく

井 有の連絡は

然し口民の範囲内にはこれなくさうに
互つて外へ外へ外部に對しては甚しく封
鎖的であつた。口民元來、文化的にも政治
的にも獨立した統一となつたのは未だあり
なかつた。口民元來の自由自治體は口民元
來と違ふ。右の連絡によつて、
連絡の
意を以てのら

の如く、一極性を是作的に生ずる

す為の口民元來の組織として

大木の都市の配置 は巧みに配列され居る。

水 は

口民の生活には本業農民と工業

者との水は一體生かすべく行つたは

分てあつた下あり。その他のもは

文化の發達と共に増加の心をして

来たものと見られる。即ち農民

と工人との交易の便宜の為に交通

運輸の機関の備へは必要であつた。それ

が、この工人の地位に於いては、

都市が、出ることゝなるといふこと。

何時の時代にも社会の治安を亂す不良の

徒が都市中心に居たことある。それをも

恐れたのは都市の富裕階級の人々であ

り、都市は暴力団を鎮めて治安を

保つておたうしなう。

要は都市は口良記な生活の結晶

である。この都市は文化の交流の

場、交通の流、人口の交流の場

行政的統治、治安維持、教育の場

同様に、市民の地位

を失ふことである。

T. Lynn Smith and C. A. McMahan :
"The Sociology of Urban Life," 1951

Contents

Part I
Introduction

- Part II
The Nature and Development
of Cities
2. The City and the Country —
Contrasts and Interrelationships
 3. The City's Functions
 4. Ancient —
 5. The Growth of —

Part III
The City's People

- 6.
- 7.
- 8.
- 9.

Part IV

Social Morphology

10. The Ecology of the Human Habitat
11. Social Differentiation and Social Solidarity
12. Social Stratification

Part V

The Basic Social Institutions

13. Marriage and the Family
14. Education and the School
15. Religion and the Church
16. Government and Politics
17. Recreational Institutions

Part VI

The Social Processes

18. Competition, conflict, and cooperation
19. Assimilation, accommodation, and acculturation
20. Social mobility

Part VII

Social Disorganization and Social Welfare

21 Pathological Aspects of Urban ~~Welfare~~
Life

22 The City and Welfare services

Part VIII

Conclusion

23

24

25

中心集落の類型

local Village
primary center
(第一次の中心)

- 計画的な中心
- 金種物産店
- 自動車修理
- 金物店
- 銅器店
- 教舎
- 学校

Small Village

今上

- 銀行
- 洋行式金種物産店
- 藥局
- 宗具高
- 高層藥局の金種店
- 映画館
- 病院
- 習字塾
- 旅館
- 金種店
- 上製靴店
- 園子(15)

large Village
Secondary center
(第二次の中心)

- 高級な金種物産店
- 宗具社
- 各種型同物産店
- 高級品店

City

open country
Family
(农家)

2-3km

3-4km

4-6km

15-30km

Sanderson: "Rural Sociology and Rural Social organization" p268

サンダーソン教授は日本の農家の依存する市街地や都市との関係を次の様な圖表で現はして居る。

廿一七三、の種札

農民生活の中心
中心集落の類型

サンタイン集落を示す
この示と同様のものを北海道の農長はついでに
一例は次の通りである。

農家
北海道農林部調査所調査報告書の
一冊の巻末に載っている。

中島経済文二三四頁

新橋内物産商店
吉野 (約40戸)

兼農離産高小學校
この地区は農産物の集散地として、農産物の
最少限の生活必需品のみ
農民の生活必需品は、農産物の集散地として、
はるばる、宗谷村の各戸に
衣種各

隣近落商店群集
日吉 (約50戸)

商(4) 各種食料果物魚貝豆腐
工(5) 農機具修理蹄鐵、澱粉製
造
官公設機関(5) 郵便局、役場土産
會林区出立所、組合支所
診療所、読書所、中學校

溝打商店群集
作次 (約20戸)

製粉 精米 製糖 畜産物の食料加工
製材 製紙 綿打並し
水利利用の設備
寺院

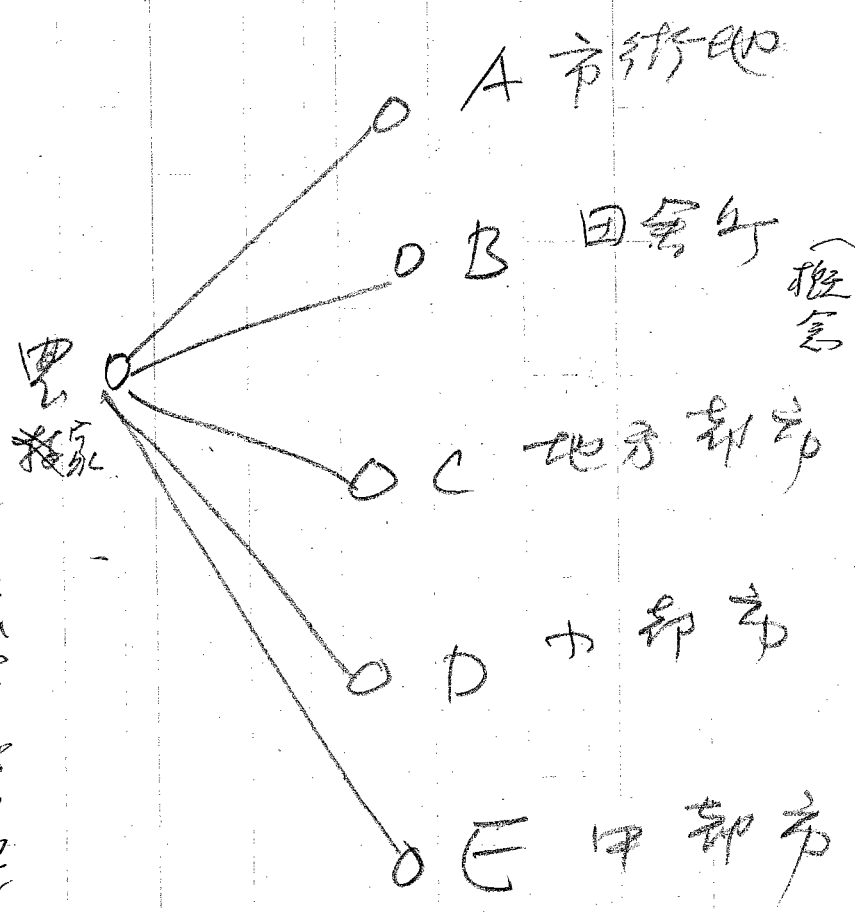
向井内回舎
常光 (18)

町役場、組合本部、学校等
政治的集落
宗屋、映画館、齒科医、藥局

小都市
北足 (約35)

高等學校、洋裁學校
農機具修理(穀物機脱穀機)
3年制修理
娯樂(映画、芝居等の設置)
冠婚葬祭用具
医療(入院加療)
農産物出立所として、落荷、亞麻
加工、土産物の特用作物

集約化の形を考へる。



Bも周辺に農産物を持つセンターであるからである。

BはAより大なるサービスをおすとせんAのサービスもなす。同様にEはD以上のサービスをおすとせんABCのサービスと同時に済む。故に甲甲都市EにはAのサービスをおす一面である。大都市にも特等な面があるからである。

ABCDEは人同様の基礎的のよりより漸次

高次の階級を意味する。Aは最上級の

基礎的の階級のよりBは第二次的のよりCは更に第三次的の階級を意味する。以下同様である。Aは人同様のものを意味する。Aは自給

次に

a e

に d が入る。 B は人同様に生活水準が低いからか。と昔に A に近い生活を求へ B 自身に近づくは A 及び B を求へる。以下同様である。

けれども農村及び A の生活水準の比を求へるこの例では D や E 等には電燈を

用ゐる。この例の対象は A 及び B の生活水準の比を求へる。かくして

a b c d e は A 及び B の生活水準の比を求へる。かくして A B

C D E を並置して考へる。生活水準の対象は

A B C D E を並置して考へる。生活水準の対象は

たゞの片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

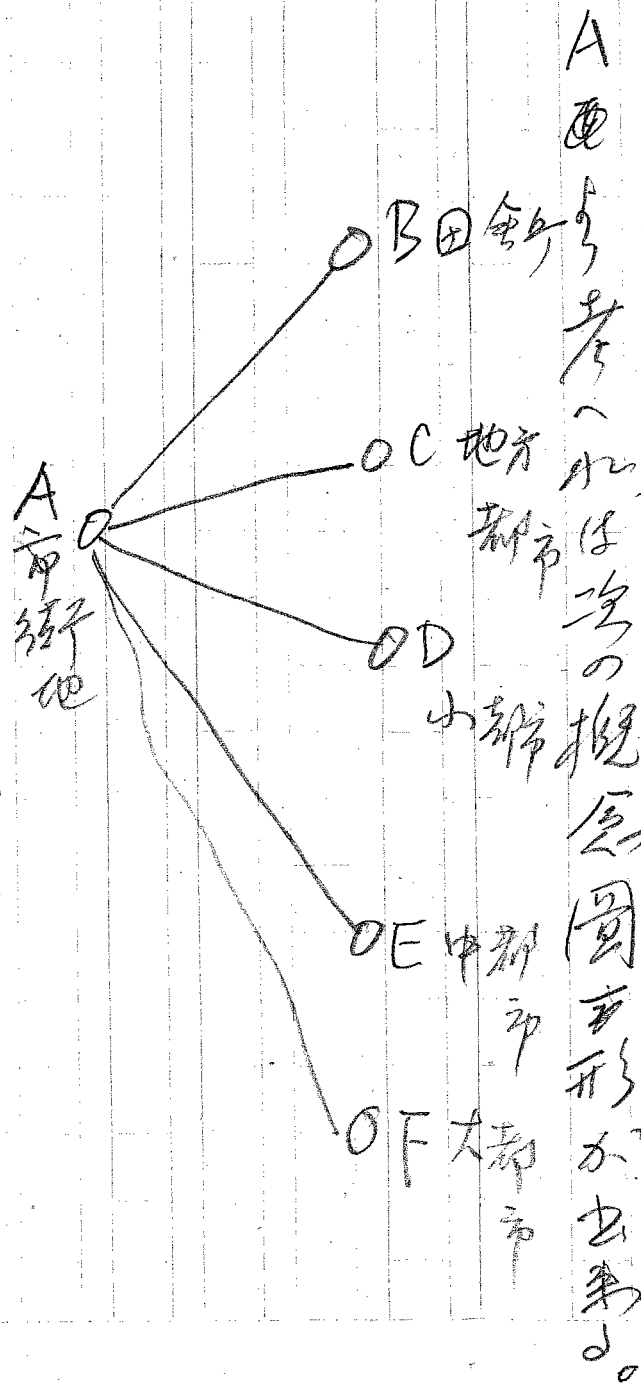
くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

くたつて片。この例では生活水準が漸次高

同様にして E には a を基礎的とする。各々の人は A 及び B の生活水準の比を求へる。かくして A B C D E を並置して考へる。生活水準の対象は

Eの周辺にはDがまると共にCもBもAも農
 業さへはあります。Cを中心にBはありぬ。故にE
 はDにはEのサービスセンターであるが、Cには
 DとEのサービスセンターである。AにはCと
 Eのサービスセンターである。然し、果樹の配
 の一枚り際かどう考へれば、最も多くはAは
 右はBよりCはCよりDはDよりEはE
 よりよりのものが一般である。かくて市街地



ここでは、早稲米は除外され居る。次に
 Bを中心とした概念図形を造ると、農家の
 外Aは除外され、同様にDを中心として居る
 外はAもBも除外され、Dは依然存
 在する。Eは中都市、Fは大都市である。然し、

民生生活者一他の模範に如何の強弱を

この都市

恐らく中世の終り口民の大部分は
尚ほ中耕に従うて居るであろう

(X)

曾て口長は茲に悉く曲を耕に従うとし

これ大時代かあるとあると曲を耕のるんは

土地か伊等であるか(口長は令領域に

村落の中は片長に片長

亘つて散布して居るであろう。比肩汎な

領域に亘つて散布して居る口民か、而し

交通格闘の起るして居るからして時代の経済

的の智を相違じ、同一の統治者の下に服

し、同一の文化を傳へたすゝめには概して

整頓された知識が必要であるであろう。

地理的経済的

昔の口民は甚だしく自主自給的であつたか

塩や鉄器の仲買は需少限交易

は必需品となつて居たから

を中平帯ししゆんであらう。からし何水の果地

も孤立は許されたりかた。

一般期とは
チンチン

又群島の圍入に對して附近の諸島の

鹿港

銀港下にたり

とあつた。孤立は許されたりかたの

法立が親法立を証明した場合はあらうか

親法立が自ら進んで法立の口は降りる

鹿港を仰り場合なりあつた

上級の法立は元上の上級階級の宗末をなす

法立は元上の上級の法立の宗末となり

又同存の理由か

縁取りの法立を有し終りに口は降り

に達する封建の社会

たつあつた。

法立の居城には意匠と賦文を集まつた。

地

大中町の治左の片城の地 一 道下 不町場とあり
城下町と指、大石は云々へな...
城下町や町場はかくの如き、大中町
の治者も、片城に 地 各同位ではな...
と考。 ⊗

今日念口の大中や都卒の中心はかくの如
き甲世の大中やの大石や名の片城の地に
その起源を有するより大石も多...
なる、あるか。

治左の統治が急と強制的な制とな...
7代²其命令に 強制的 従はんとす、
は下の文化に 次第に 浸乃した。かく封建的...
の純粋な黄金に劃一の文化が普及し

の純粋な黄金に劃一の文化が普及し

漸次

2層
左にあり。

治安的には軍事的防衛の機能

かくて大中小名の層城は文化配給。

結節的地真の強と強しと云ふところ。

封建時代は^{以上の}四の都市の機能即

ち経済的^に及^たる^たの^た結節^的的^的経済的^的結節

は~~代~~代^的文化^的配^給の^た機能^的を^た今^のおん

た^たく^たも^た都市^は集^るた^たり^た。五^の水^のは^た其^の

低^の地^の層^の有^るた^た同^の設^定と^なる^た。2層

①

定期の市場が都庁の起原をなした

あろうことは史家の教へるところである。

江戸時代の末期まで江戸の大部分の

都市は武士と工業者と商人が住

んで居た。武士は武人であると共に

為政者である。

職掌

都市を構成する必須の人々は任へあ

らうかの武士か工業者か商人か。

定期の市場に上り下りするのは

商人である、大抵あつたものは武士

なく工業者であるか、たゞあつた。

郵船には終戦の際まで商人を口に入

り五日毎の定期の市が定められ均所

に於いて開かれべきである。それ等の市に

於いて兩院制を経営する。商人を議員

と呼ぶが、保身商（私利私欲）の金に互々

暴力的自治的団体を結成し市の

治安の維持を以てせむ。其結果の

強さるる因縁國構成の勢を導きし

勢よく可なりとある。

中せしむの都市に於いては、商人の

商業的自治的団体（この意味）も亦と同様のし

つてある。

同様のものは、今日の大都市中

に属し、且、小、露、新、商、人、に、つ、いて、も、互、に、

つては、な、ら、ず、か。

壹四皇の社を造祀を保護すよ為に、又

財の保安の為に商人は治安の維持

を伊要とする。昔昔も本本しくも富富を積積む

商人程は最も程も程く治安の維持を伊要に

す。何れの時代にしてさうであるから、

国家の治安維持の力不足をなく敷し密

し軍際に之に整備せしむるべき也

時代には商人は自か治安維持の

か又はそのみに自衛力国を維持す

自衛的暴力維持を担成すべし

伊要であったと云ふ事し。国家の治安

維持の力不足を以て都市の富者

等は警察隊と軍隊との庇護を強く

望む事あると云ふ事。又治安維持の力に

協力したる事あり

為政者は

通る

中世の城下町の職人の人に構

は武士と工場の主と高層を主とするが

武士は^其仕事は^其工場の主や高層を

に^其城下に集めるとも云へる

字や高層を主とする^は道人の

武士の古物の底層の下に^{安堵を覚えた}加増した

あまうり^は品も高層を^は商人

前も強力な武士の城下を^初選ん

てあまうり^は何れの時代にも

無^はは都市には商人の外に治安維持の

任にあまうり^は年次^は家又は幕府同

の如きもの存在が必須である^はのである

か。市と工場は都市には^は本質的



全口的分枝の構造を以て其の金貨関係

は其本據を中央大都市に打つて其の

二ある。中央大都市に中央構造を以て大

都市に合柱の構造を以て事は構

二ある。要即ち此は札幌に中心を以て

又、此支店 一般に中央大都市に於

巨大な分枝の業係が果する、其の各係

一全口の中大都市に全口を以て其分枝

の構造を以て其の店を。然し中央都市

に中央構造を以て其分枝の構造を以

中都市を以て其の業係を以て其の業係を

より其の業係を以て其の業係を以て其の業係を

より其の業係を以て其の業係を以て其の業係を

連ねて居る同位が存するのである。

(丸着が書元の本文を) 同位然しに何

箇条の申出部を連ねて了る同

位、何箇条の下部部を連ねて

了る同位は存し指し標である。

これに上級より下級に及んで来

内容に由るものがある事を示す

せしむるものがある。田舎に云うは可

く文化生じた水準の相違に由るものと

果して此の同位は常に樹枝化をなし樹

枝相互の横の直線の同位は存しな

らぬものである。

① 然し此校室には一つの大きな欠点がある。即ち

それは都市の規模と事業体の規模の乖離に平準

の図柄があるから知れぬが、此の欠点である。

此欠点は矢張り決定し得るべきものであろうか。

か。大都市に大企業体の中樞部を有し、中群

市に其次大企業を幾分擁護し得る。同様に大都市

にそれよりわずかに分枝的様子を有するものと云ふ

可此は殆どなから、一般的原則を以て得るべきである。

故に小都市に於ては、大企業体の中樞部が存在

するものは多からず、即ち此の七氏考へは三層

業態に工業の立地條件に因りて考へるべき

を估するべきである。然し、原料や交通や労賃

市地

等によつて左の如きものと考へるべきである

考へるべき都市の規模は其層に依り

熟したる所の規模を條件として之と考へる

此亦正當であると思はれる。即ち都市は

如何なる工業立地の為のよき條件が與ふに依

りて其金の量に依りて其工業の規模が定まる

得てあらうか。かくいふ特殊の條件が

多に在りたる一般の都市には是れ一匹^大

模範が整つ得ることは否かと考へるに都市

には少都市に依りて其規模の模範が起るの

が然らざる。故に云はば社会的立地の條件

によつて都市の立地の規模は其都市

の規模に制約されざる。即ち自然的には云ふべ

かあるべきである

上級都市には支配が集まると故に高の地位
加、集まる高の所得、高の生活、集まると
だ。故に高の文化がある。

但し高の支配には何故に高の地位

高の所得があるのだから。

高の所得は高の文化がある。
高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

高の所得は高の文化がある。

から地方へ送るのにお金がかかる。

（曾この担庫調に比べて多いもので、
はいそれよとのほゑ食後のお料理

を産物と労働力とそれにお金を

税への寄附と厚費等とあり、送る

出すものには厚厚と先決型を

不満足な力加工品とてある。

税控有との例を、と中央、地方

より、はい上げの、（とすれば） 地方

に支拂ふ総額、七〇%とある。

送りの、五〇%と中央が送付する。

厚給金などとは地方支那の年子

の紙巻に比べれば地方支那の総支出

額は遙かに少額である。

紙村子規

その差を縮めよ。本邦が膨張して行

く。各級の文化圏作りにおいて本邦を

領土費と^{（命費）}は命とし、^{（命費）}各級を

中央に集める地元の^{（負担）}にも中央

が紙村子規の主張です。中は中央部を

の^{（地方より）}地帯に^{（地方に）}送り送るおすもよい

の^{（地方より）}地帯に^{（地方に）}送り送るおすもよい

の^{（地方より）}地帯に^{（地方に）}送り送るおすもよい

の^{（地方より）}地帯に^{（地方に）}送り送るおすもよい

同様のことがあつたのは、又地

方より^{（地方より）}中央部の^{（地方に）}送り送るおすもよい

紙村子規の主張は、中央部に

同様の^{（地方より）}地帯に^{（地方に）}送り送るおすもよい

でもあ

とあるが、中央都市を地
方との民間関係の一般の都市と
元勢力圏の専断的なもの同仕
に足るものではない。

中央都市は一般に天下の
との関係の大きさを示し、
かへって、これに反して、
は、
抗大

口ぬの都市も、
に、
授、
は、

公共物
中央地元の意

勢力圏

先正

生活に於ける上級下級都市の区別

(1) 生活水準の区別

（国心は常に

高い生活水準を要求するものは上級都市

下級都市がカピタル主義の生活水準を要求する

に向かひ、衣食住の山高物産の豊上級

都市である。四時一果物外心の美観

一が大都市に於けるも亦、高い教育

や娯楽のみならず、上級都市に國心も亦

おのほお外である。高尚な音楽や

藝術等はは大都市に集まり、大都市

への感嘆物にはあくまで知りぬ娯楽の

設備も定額より、医療や教育の機

関も、これらも亦、これらも亦、これらも亦

益本を是の機関は定額より、

(2) 生活の心から上級都市を標榜される

は当然である。生活欲求充足のために

下級都市からサービエをうける場合は

強くなる。生活水準は低下^す。暴^す乱

や内乱の際には、人の流動が平常の場合と

は逆に都市より農村へ極く稀に生活圏

心も^も上級都市より下級都市に向かふ

傾向とある。是れは全く累代の際

象であるが、平和時代には都市にサービエは

上級都市よりうける。既に述べた様に

下級都市に於けるサービエは遂く自己の

都市に保有して居るからである。

次に

職場に於て上級下級の同僚関係は、
行政機関

行政機関

行政機関の上司下司の同僚

銀行

銀行の上司下司の同僚

銀行の支店同僚

文化団体等は本部支店の同僚

文化団体等は本部支店の同僚

ヤクザ仲間等は自分等の同僚

何れも上位のものは上級都市の同僚、下位のものは

下級都市の同僚である。の一般である。

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級都市と下級都市にある同僚との同僚

上級機關に於いて連絡を管理へ監視を
統制へ統制より支配配へ支配より更に
命令行服保度に向つて進んで行く
順位以下級機關に於いて任務より依
托へ依托より服従へ服従より更に屈服
降参忠誠に向つて行く順位は何れも

民主的團體が獨治的團體に移つて
行く順位であるから、今日に於いても
文化的團體の内部にはかかる如き権限が
見られなくはない。一般の事業に於いて
はかかる如き關係はみなある。一般の

事業に於いては下部の機關が連合協
力して上部の機關を必要とせしめられ

樹立すると云ふのは、先づ上層の

機同が第一に取^出られ、上層機同が

新しいに必要に応じて下層機同を

設けて行くのが一般の概である。故に

下層機同は他の同所の下層機同と

密力して上部機同を樹立したのではない

く、^片はじめから上部機同によつて反

立たれたものであるから、上部下

部の連絡は緊密である。下部材

と^の間には緊密ではない。故にそれ

の機同における間隙は下より上へ向ふ

長延の間隙ではなく、上より下へ向ふ

短延の間隙である。故に初めより

保衛である。征服である。命令である。支
配である。統制^や。管轄^や。連絡^やは保衛^や
征服^や命令の便宜である。

大義教の事業体における本部支部
の同位は右の極である。左の
事業体の本部を位置する上級都市
と支部を位置する下級都市との
同位と同様、同位は左の極である。
である。然るは大中小都市のヒ
ールキーは常に横の同位を各社した
上下同位による聯絡を以て居る。
樹枝状のヒールキーである。と云へば
である。その二は同級の横の連絡^{都市}

は上級^の都市を通じての不可能である
様である。

同程度の田舎町と田舎町との社会的交流
は甚だしく、若し交流を促す事は出来
は両田舎町を共に其傘下に収めて居る
上級^の都市を通じて行はれるものがある
あり。交流は常に上下の間に行はれ
同程度の都市間の横軸と横軸の間に
は余り行はれない様である。

甲府市の

甲府市は中央機関の行政的

機能に及ぶ^{（以後は是のまゝ）}支配命令の系統を

本府市に及ぶ^{（是のまゝ）}行政的機能に及ぶ

然し、はかくの如く支配命令の系統はありゆ

行政機能、経済産業的機能、文化団体^{（以下）}に在

すよのてあつて是れが、^{（以下）}大府市

甲府市へ甲府市より大府市へ及ぶ^{（以下）}の

てあつたから、さちか^{（大府市）}の行政的機能

そのまゝの支配命令のヒールンキ^{（以下）}であつたの

如くに思はれぬ。又支配命令のヒールンキは

此の成層のヒールンキと表裏して是のま

のであつたから大府市のヒールンキは

是のまゝ、此の成層のヒールンキを以

意味して居る様である。

小郡^市や白地^市や都^市に大々たる学校なく

故に高い社会成層が是より高き生活

水準を具し居るは是を爲すである。

中心をなす片。極心の異國の中
心的機關をもつて片。是れ等の同様の
考慮をなす片。是れ等の勢力圏は相違
大なる中心となす都市が自らを支配する
と片。又、五人の足らざるは勢力圏は
大牛やの何れの規模の都市をも有する
。恐らく勢力圏を皆大なる都市は有し
たのであろう。炭坑都市は自らを勢力圏
をもつて片。

吾人は勢力圏を此等の接觸度の表極
より作らば、片の勢力圏によつてこの
勢力圏は、獨立的地域と解す。この力は
仙々の政治系に於て、獨立的地域を

意味する。従来の方へとは異なり、一切の
北支政策に於ける北支の接衝を意味する
ものなりである。
の重複の独立

吾人の所する北支の勢力範囲は北支の

接衝の懸念による。懸念を漸定する。可成りよ

く、吾人が北支の接衝人と物と人との

流弊の方向と態度を漸定する。林

はすしし不可能でない。(漢北支の地運) ^{に於て}

北支の接衝の重複にも独立の地又は

大中や何れの程度の都市と同一存在

存し得る。この地又は地元の

北支の文化の地又は地元の ^{概念的に} ものである

、或、將來に於ける地元の文化地又は

現在形成して、各地区とよぶべきでない。

従来勢力圏と隣接したところの

ものは、文化的に他の地区とを分けず

す。これは、文化的地區とすべきであらう。

これは、文化的地區とすべきであらう。

文化的地區は

邊境に於ける文化的接觸の独自の性格によるものである。他人の文化地區とは、文化的地區とすべきであらう。

これは、文化的地區とすべきであらう。

一、地方圏と行政圏

一、地方圏と同質性を有する

一、地方圏が行政圏を形成する

一、行政的の地は、官公廳管下

一、地方圏(文)

現在、地方圏は行政圏を形成する。これは、地方圏が行政圏を形成する。これは、地方圏が行政圏を形成する。

- 一、病院 物同之地区
- 一、女子校 地区
- 一、^{新市} 公園
- 一、^(近) 教会地区
- 一、祭典 地区

文化的地区は過去に於いて社会的格差の基礎の上
に形成されたものであるから、現在の社会的格
差の事実にも同じような場合が多い。

現在の祭典地区は現在の社会的格差の基礎地区
と関係する場面がある。中核的・文化的地区に
決定するものは存在し、現在の格差の事実と
ある。これは社会的格差の事実と格差の同義
である。知恵の身体と衣服の国体は比方可成
である。

吾人が勢力圏を社会的格差の基礎と解
し文化的地区を格差の基礎と解する程その
の発展を重視したいからである。

米田忠村先生著「*Minimum Informatives*

を同じにしたのは、その Rural Community
決定のおおむねが、都市の Sphere of influence
に属するものではない。

此の Common Interest Area は、農民の耕作地を

包括する Center の決定のおおむねに同じとされたので

あるが、この定数は、多くは Village の同じにして

向河中村の Center には、大々な City を含むものは

与えられ、これは、一般には Village である。

都市圏の Sphere of Influence の決定は、同じくは

地方の大都市が同じとされた。

知し、他の都市圏については、これは、地方

圏の動きの中に、社会的地理的決定

やうなものである。研究の結果、これは、大中小

市の何れも一軌跡の中心に据えられた。

然し他々の地は地味にす。都市一勢力圏

吾人と異なり

の同化は互を軽視する。これは決してなすの事

ならず、互を互に重視する向いとし

片は勢力圏に於ける支配の内容も他々の文化的
地回には自ら地味に於ける。

『都市勢力圏』としての文化的地域の中へは

以下治者を両方

恐らく双勢力圏が最も基礎的と思はれる。

それは社会的格差を種園と可容と見出し

近づきのところ。

地亦新同種園を園は半口ルに於ける我我か

では重要下なる極である。

地亦予予を放逐勿管下は放逐勿管

我が口

おつ、地亦放逐不充分に生きた所なる今では

余り重厚な文化的地区とは思ふべき

行政的地区は重厚な文化的地区を有

して居る。特に北海道の如くありゆゑの

生産活動に行政官庁は依存するべき

と云ふのは然らざる。

地方の地区は標準語を尊重する。其の

下では余り問題とならぬ。社会的流動が

進かると拂拭してしまふべき。

病院や学校や教員による文化的地区

は自治 Community Interest Area として

扱ふべきであるが重要視して片づけるべき

である。我々にはおけるべき重要な社会

を決定するべく是等の資料が未だ残つて

異なる。先づ正當な生活に因す。余の
理想は通勤圏と通学圏は病院
や教室による文化的地区とは異なる。既
務のよきである。

通学圏は農村に限定され、都市
にわたると交通を利し得ざる。米口
には都市の通学圏は勿論農村の通
学圏も存在する。米口は
都市。同族同姓の地域的集合は
認められ、同じ農村に通学圏の存するの
は当然である。

祭祀地区は早稲を旧時の我々の農村
地帯の生活には甚く大なる文化的地

の紋断りを披いて居るが、年々其のさうでは
ならなくなり、ある。そこには色々の植物が育ち
るが、
以上略しては次の章より角端

勢力圏は北原の接觸面積の地区であるが、
北原の接觸は最も多く交通機關によつて

左右される。ハトリ、ク、ケ、ク、この河子法は甚
しく交通機關の發達して介るた、これは自然
的の地形の障壁と政治的領域の境界である。

口内の大々都市を程々で精緻に連絡して
居る交通の道路が口境を越へては如何に

強強に断ち切られるか。一口の首都の勢力
力圏は愈々強く口民北原を拘束して行く

「あゝか、口境を越しては如何に無力である
了であるか。」